関西自然保護機構会報 19(1)：61－62，1997

ハマナツメ群落とイチイガシ林の見学会に参加して

アジア航測株式会社　笹　木　義　雄

REPORT OF AN EXCURSION ON THE FORESTS OF *PALIURUS RAMOSISSIMUS* AND *QUERCUS GILVA*

Yoshio SASAKI　*Asia Air Survey Co., Ltd., Osaka.*

今回の見学会は1996年11月24日(日)に日帰りで行われました。午前10時30分に近鉄松坂駅に集合し，乗用車２台に分乗しての見学会となりました。参加者は，三重県立長島高等学校の山本和彦先生，天理大学の菅沼孝之先生，和歌山大学の牧岩男先生，大阪市立大学の山倉拓夫先生，他２名の総勢６名となりました。行程は，山本先生の先導で三重県皇大神宮別宮の滝原宮のイチイガシ林を見学した後，三重県海山町のハマナツメ群落を見学し，午後７時に近鉄松坂駅で解散しました。

滝原宮のイチイガシ林は滝原宮の社寺林内に生育しています。この社寺林は，何百年もの間人手が入らない状況で維持されてきており，自然林の典型として考えられます。その面積は参拝のしおりによると宮域44haとされており，林冠はスギやヒノキの大木で覆われその合間にイチイガシの大木が点在しています。林床は林冠が密に覆われているために非常に暗い状況にあり，社寺林を横切る参道の際にはイチイガシ，ミミズバイ，シロバイ，トキワガキ，ルリミノキの低木が見られ，植生としては，暖温帯の常緑広葉樹林に属すると考えられます。現在では，社寺林の周囲には柵が張られ，シカのような大型の草食哺乳類が入れないようになっています。

イチイガシは平凡社の日本の野生植物によると「常緑高木。幹は高さ30m，径1.5mに達する。樹皮はふつう灰黒褐色で，皮目が多く，大小ふぞろいな薄片となってはげ落ち，波状の紋様ができる。雌雄同株。花期は４～５月。堅果は卵円形または広卵形，径１～1.3cmで年内に熟す。本州（関東地方南西部以西の太平洋側）・四国・九州に産し，朝鮮（済州島）・中国（台湾・大陸）にも分布する。耐陰性が強く，暗い常緑広葉樹林にも稚樹が多い。谷底の湿潤な肥沃地に大木を見る。人家や寺社に植栽されることもある。材は柾目に虎斑がみごとで，器具，建築などに利用され，また，強靱なため昔は舟の櫓に用いられた。堅果は食べられる。」とされています。滝原宮のイチイガシには，高さ30m，径1.5mを越えるような大径木から稚樹に至るまで大小の木が見られ，貴重な群落と考えられます。

昼食を終えた後，海山町島勝浦船越のハマナツメ群落を訪れました。ここは，海岸線から約100mぐらいの海沿いにあり，高台からみると一見藪に見えます。周囲の自然環境は良好であり，イノシシ狩りをしているハンターに出会ったり，シカの角が落ちていたり，船越池にはカモ類が訪れたりといった状況です。ハマナツメ群落は，樹高６～７m程度の低木林で，クヌギが点在する以外は他の樹種がほとんど見られないハマナツメの純林となっています。林床は，スゲや草丈の低い草本で一面に覆われており，歩きやすい場所でした。

種子はたくさん落ちていましたが，一見したところ実生は見られませんでした。ハマナツメの樹形は扇状になっていて，株の中心付近の幹は直立しているのですが，周辺部の幹は次第に斜上し，さらにその外側は地表面に倒れてしまいます。幹の太さはどれもだいたい同じくらいで，年輪を数えてみると樹齢40年程度でした。ここのハマナツメ群落は，気候的には生育に適していると考えられますが，大雨が降ると船越池が増水して，地表面から50cm ぐらいの高さまでが冠水する環境にあり，本来の生育適地とはいえないような環境だと考えられます。ただ，こうした環境であったために他の樹木の侵入が抑えられて，貴重な植物やハマナツメの群落が守られてきたのかもしれません。

ハマナツメは平凡社の日本の野生植物によると「落葉低木でやや匍匐性。まれに大木がある。幼樹には托葉の変化した刺がある。花は小さく，淡緑色で径約５mm，７～９月に咲く。種子は扁円形で紫褐色。本州（東海・南畿・山陽地方）・四国・九州・琉球の沿海地に産し，朝鮮（済州島）・台湾・中国大陸・インドシナに分布する。」とされています。ハマナツメ群落が確認されている場所は，全国で12ケ所に過ぎず，そのなかでも船越池湖畔に成立するハマナツメ群落は日本で最大のものであるといわれており，緊急に保護対策の必要な群落と考えられています。植物群落レッドデータブックによると「群落内の林床には，トダスゲ，フサスゲ，ツクシナルコ，チョウジソウ等のRDBで絶滅種あるいは，絶滅危惧種として扱われている種が生育している。なお，ツクシナルコは，当地が北限にあたるものと思われる。70aに及ぶハマナツメ群落は今のところ良好に保存されているが，池の周囲の開発が進行している。現在，何の保護策も講じられておらず，私有地であり，土地所有者の意向次第で，いつ開発されるかわからない状況にある。」とされており，極めて危機的な状況にあるといえます。環境庁の行った第２回の自然環境基礎調査の時に，特定群落の指定を受けるように配慮されたこともあったようですが，貴重な植物をマニアの採集から守るために敢えて特定群落にしなかったということもあったようです。土地所有者としては，近年中につぶしてしまうようで，非常にもったいないことだと思います。

日帰りの見学会でしたが，植物群落の保護の難しさをつくづく感じさせられました。案内をして頂いた山本先生をはじめこの見学会を企画し運営して下さった事務局の方々に心から感謝いたします。

蛇足となりますが，滝原宮の入り口にある食堂で食べた伊勢うどん（腰の全くない柔らかい麺を使ったうどん）と松坂で食べた松坂牛の炭焼き定食（これまで私は食べたことが無かったのですが柔らかくて口の中で溶けるようなおいしさ）が印象に残った一日でした。皆様も是非一度ご賞味下さいませ。